

学 位 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

1. 申請者氏名	鈴木 千春
2. 審査委員	主 査：（兵庫教育大学教授） 永田 智子 副主査：（兵庫教育大学教授） 岸田 恵津 委 員：（兵庫教育大学教授） 森山 潤 委 員：（兵庫教育大学教授） 森廣 浩一郎 委 員：（岐阜大学教授） 大藪 千穂
3. 論文題目	小学校家庭科及び生活科における「家族や家庭生活」の授業での絵本の活用に関する研究
4. 審査結果の要旨	論文提出による学位申請者 鈴木千春 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。 論文審査日時：令和6年2月12日（月） 11時10分～11時30分 場所：オンライン会議 （1）学位論文の構成と概要 本論文は、以下に示す、全10章から構成されている（節以下は省略）。 第1章 序論 第2章 デジタル絵本教材の開発 第3章 デジタル絵本教材を活用した授業実践と評価 第4章 家族や家庭生活に関する絵本の選定 第5章 家族や家庭生活に関する絵本を活用した授業づくり 第6章 小学校家庭科の家族や家庭生活に関する授業用教材の作成 第7章 小学校家庭科の家族や家庭生活に関する授業実践と評価 第8章 生活科の家族や家庭生活における授業用教材の作成 第9章 生活科の家族や家庭生活に関する授業実践と評価 第10章 結論及び今後の課題 概要は、以下の通りである。 第1章では、絵本がイメージを特定して伝えやすいという特性を有するメディアである

ことから、小学校家庭科及び生活科の家族や家庭生活の授業に、絵本を教材として活用することについて検討した。絵本活用の新たな課題から本研究の目的やアプローチの方法、論文の構成について整理した。

第2章から第3章にかけては、授業の目的に合致した絵本を制作した場合の有効な絵本活用方法を明らかにした。制作した教材は、家庭科用のデジタル絵本教材「家庭科かくれんぼ」である。本教材は、家族や家庭生活のイメージを伝えるために、日常によくあるお話から絵本画面を制作し、学習内容を具体的に伝えられる動画や写真を盛り込んだリンク画面を張り付けた構造である。デジタル絵本教材は、児童にとって家族や家庭生活をイメージしやすく、学習内容を具体的に伝えることに有効であった。また、教員の属性に関わらず概ね使いやすい教材であった。絵本を制作する場合は、イメージと具体が伝えられる構造のデジタル絵本教材が有効であることが分かった。しかし、授業の目的に合致した絵本を作り続けることに限界があることは課題となった。

第4章から第5章にかけては、市販されている絵本に着目し、授業の目的に合致した絵本の選定と、選定した絵本を活用した授業づくりの結果を示した。絵本の選定には、家庭科の授業に使用された100冊の絵本を対象にした。学習指導要領の家族や家庭生活に関する学習項目を含むものの中から調査用絵本として9冊を抽出し、そのうち授業者側と学習者側で読み取りにずれが生じなかった3冊を選定した。これら3冊は家族や家庭生活に関するイメージを特定でき、学習目標の達成が期待できることが示唆された。選定した絵本の活用方法について大学生の授業づくりを検討した。結果、絵本を活用した授業を実施するには、絵本を提示するだけでは成立しないことが分かった。特に児童が迷わずに考えたり書いたりするための授業用教材が必要であることが分かった。

第6章から第7章にかけては、小学校家庭科の家族や家庭生活において絵本を活用する授業用教材の作成と授業実践の結果を示した。児童が迷わず考えたり書いたりできる教材として2種類のワークシート（以下WS）を作成した。一つ目はイマジネーション育成のアプローチから、絵本の中の家族の一員の立場で、吹き出しに書くタイプのWS-A、もう一つは国語教育的なアプローチから、家庭科アドバイザーの立場で野線に書くタイプのWS-Bである。選定した絵本と作成したWSの組み合わせによる授業実践の結果、いずれのWSを使用しても「家族の一員として家庭生活をよりよくする工夫を考える」学習目標は達成できた。特にWS-Bは、相手に提案をするような表現で、家庭生活をよりよくするために「役割を分担する」などの工夫が数多く具体的に出現した。小学校家庭科における有効な絵本活用方法は、選定した絵本とWS-Bのセットであることが示唆された。

第8章から第9章にかけては、生活科における家族や家庭生活に関する授業用教材の作成と授業実践の結果を示した。生活科の家族や家庭生活の授業に家庭科での実践が援用できることが示唆され、2種類のWSを作成した。一つは家庭科のWS-Aをベースに、絵本の中の家族の一員の立場で吹き出しに書くタイプのWS-I、もう一つはWS-Bをベースに、家族をよくするアドバイザーの立場で野線に書くタイプのWS-IIである。選定した絵本と作成したWSの組み合わせによる授業実践の結果、いずれのWSを活用しても「家庭生活をよりよくする方法を考え、家族の一員として協力する必要性がわかる」という学習目標は達成できた。特にWS-Iが、家庭生活をよりよくする方法を数多く記述できていた。生活科における有効な絵本活用方法は、選定した絵本とWS-Iのセットであることが示唆された。

第10章では、本研究のまとめとして各章で得られた知見を整理し、以下を結論として示した。本研究では、小学校家庭科及び生活科における家族や家庭生活に関する授業を通して、絵本が授業の目的を達成できる教材になり、学習に必要なイメージ形成を支援できるメディアであることが示唆された。有効な絵本活用方法として、絵本を制作する場合は、イメージを伝える絵本画面に学習内容の具体を伝えるリンク画面を張り付けた構造のデジタル絵本教材「家庭科かくれんぼ」が提案できた。市販されている絵本を活用する場合は、絵本を提示するだけでは児童が学習活動に迷う恐れがあったため、考えたり書いたりするためのWSとセットで活用することが提案できた。特に、選定した絵本と家庭科ではWS-B、生活科ではWS-Iのセットが推奨された。

絵本は、読者の自由な解釈や発想にゆだねられた活用が多い。そこに新たな絵本活用の可能性を見出せたことは本研究の成果と言えよう。それはイメージを特定する必要がある学習に、絵本が有効な教材として活用できる示唆が得られたことにある。特に小学校家庭科及び生活科における家族や家庭生活の授業用教材として、有効な絵本活用方法が提供できたことは、今後の絵本を活用した教材開発の研究推進と授業実践の考案に寄与するものであると考える。

（２）審査経過

本論文の審査において、主として次の二点について、従前の研究成果を超えるすぐれた成果を収めていることが高く評価された。第一点は、教科の目標に合わせたオリジナルの絵本として、イメージを伝える絵本画面に学習内容の具体を伝えるリンク画面を張り付けた構造のデジタル絵本教材「家庭科かくれんぼ」を制作し、児童や教員にとっての有効性も実証した点である。第二点は市販されている絵本に着目し、小学校家庭科や生活科の家族や家庭生活に関する授業において、教科の目標や学習者の読み取りを踏まえた絵本の選定方法の検討及び選定した絵本を授業で効果的に活用するためのワークシートの開発、それらの効果を調査や授業実践を通して明らかにしたことにある。

その一方で、本研究の成果を発展させるためには、小学校家庭科及び生活科の他領域のみならず他教科や他校種などにおいてイメージを特定する必要がある学習情報を広く収集し、授業実践を積み重ねること、また、絵本からのイメージ形成プロセスに関する分析の必要性も指摘された。

このように本研究は、読者の自由な解釈や発想にゆだねられた活用が多い絵本を、イメージを特定する必要がある家庭科や生活科の家族や家庭生活の学習に教材として有効に活用するための方法や教材を一連のパッケージとして実践的に示した点に独創性があり、今後の学校教育実践での発展的展開が認められることから、教育実践学の構築に大きく貢献するものであると評価された。

（３）審査結果

以上により、本審査委員会は、鈴木千春の提出した学位論文が、博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であるとして、全員一致で合格と判定した。